

出血性肉腫ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38330

●出血性肉腫ニ就テ

(金澤飯森病院) ドクトル 飯森益太郎

肉腫及び癌腫ノ如キ悪性腫瘍ガ、他ノ良性腫瘍ニ比シ、血管ニ富饒スルコトハ諸君ノ知ル處ナリ、肉腫中殊ニ多量ノ血管ヲ有シ、手術ノ際容易ニ止血シ能ハサルモノアリ、Boist氏ハ之レヲ毛細管擴張性肉腫或ハ海綿様肉腫 Telangiectatisches od. kavernooses Sarcomト名ケ Angiosarcom 及ヒ Parthenom ヨリ區別セリ、此症ハ打撲衝突等ニ由テ容易ニ内出血ヲ起スナリテ又タ Blutiges Sarcom ノ名アリ、

出血性肉腫ハ鏡檢上、組織内ニ擴張セル毛細管若クハ海綿様ノ空隙ヲ有シ、時トシテハ自家出血ノ爲メニ組織破潰シテ不正ナル空洞ヲ形成シ、或ハ溢血ノ爲メニ血素ヲ沈着シ「メラノサルコーム」ニ類スルコトアリ (H. Schmidt, ans)。此腫瘍ハ好テ骨髓殊ニ骨端内ニ發生シ、屢ク骨端軟骨ヲ離斷シ、或ハ隣位ノ關節内ニ破潰シ、結核性關節炎若クハ血友病關節ト誤診セシムルコトアリ、今其ノ著名ナル二三ノ例ヲ掲ゲシム、

一、Krester氏 十五歳ノ一男子、左脛骨上端腫起、二週後ニシテ膝關節ニ及シ、熱三十八度内外、疼痛及波動アルヲ以テ切開排膿ヲ企シニ、軟性骨髓性肉腫ナルコトヲ發見セリ、

二、Nasse氏 四十八歳ノ一男子、左脛骨結節部ニ境界不明ノ壓痛アル腫瘍ヲ生ジ、護膜腫ト診斷シ、驅梅毒療法ヲ施セシモ効ナシ、一ヶ月後試験的切開ヲ施セシニ血管性肉腫ナリキ、

三、Dupuytren氏 二十歳ノ男子、顛倒後左膝關節ニ腫起疼痛ヲ發シ、

泥様硬度ヲナシテ荏苒治セズ、結核ト診斷シ二週間ト固定セシモ腫脹ハ漸次上方ニ蔓延シ、骨ト連絡セリ、試験的穿刺ニ由テ暗色ノ血液ヲ得タリ、

據テ血友病關節トノ疑診ヲ抱キシモ、其後ノ經過ニ鑑ミ肉腫ト診斷シ手術後之レヲ檢セシニ大腿骨端出血性肉腫ノ關節内ニ破潰セシモノナリキ、

四、Koebig氏 十二歳ナル一男子ノ脛骨中心性肉腫ヲ化膿性骨髓炎ト誤診セシコトアリ、

五、Schmitz氏 モ二十歳ノ虛弱ナル一女子ノ右大腿下端ヨリ發生スル肉腫ヲ、關節結核ト誤診セル例ヲ報告セリ、

余ノ例ハ十四歳ノ一男子、營養不良、貧血ヲ呈シ血族ニ結核ノ遺傳的關係アリ、明治四十三年一月下旬ヨリ左大腿骨下端膨大、鈍痛アリ、日ヲ追テ膝關節ニ及ホシ一ヶ月後ニハ漸ク跛行シ得ルニ至レリ、

同年三月十四日初診、左膝ハ紡錘狀ニ膨大シ皮膚靜脈努張、壓痛及假性ノ波動アリ、關節ハ半屈ノ位置ニアリテ屈伸自由ナラス、當時体温三十八度二分脈搏九十六至、同側水脈腺腫脹セズ、關節ノ周圍ハ健側三十仙迷、患側三十七仙迷ナリシモ同月二十四日再來ノ時ニハ已ニ四十仙迷ニ膨大セリ、

結核性膝關節炎ト診斷シ同日入院、患部ヲ固定安置セリ、

越テ二日、10%沃度仿兒謨「グリスリン」十五粒上ニ靈部ニ注入ス、刺入ノ際抗抵ナキヲ以テ、藥液射入後、内容ノ一部ヲ吸引セシニ暗赤粘稠ノ液ヲ得タリ、之レヲ鏡下ニ檢スルニ血球及膿球ヲ見ル、

同夜患部緊張、鈍痛甚ク爲メニ安眠ヲ害セリト云フ、翌朝腫起蔓延、限局的ニ大腿下三分一部ニ達シ疼痛甚シキヲ以テ一部切開、暗赤色ノ凝固セ

ザル血液百二十瓦斗テ漏シ、内腔ヲ檢スルニ蒼白ナル肉芽様物ヲ以テ充滿シ骨端ハ著シク曝瀆セラル、試ニ其一部ヲ搔破セシニ、海綿様出血溢々トシテ止マズ、已ムテ得ズ直チニ創口ヲ縫合シ、壓抵帶ヲ施シ、下脚ヲ高置セリ、

搔破セシ腫瘍ヲ鏡檢スルニ、毛細管擴張ヲ有スル紡錘形細胞肉腫ニシテ處々ニ巨態細胞ヲ混シ又色素沈着ヲ有セリ

其後内出血ハ停止セズシテ、大腿ノ腫脹、漸ク上進シ、遂ニ大腿上三分一部ニ達セシヲ以テ、切斷術ヲ施スノ他、已ムナキヲ論セシト雖トモ肯セス、同月二十八日退院、約一ヶ月ノ後死亡セリト云フ、

要之、余ノ例ハ左大腿骨下端ヨリ生セシ Myxoid ノ關節ヲ侵セシモノニシテ結核ト誤診シ、沃度仿兒讓、グリスリン¹ヲ注入セシ爲メ、肉腫組織ヲ破損シ、異常ノ出血ヲ來セシ稀有ノ例ナリトス、唯手術ヲ肯セザル爲メ、患部病的變化ノ詳細ナル記載ヲナス能ハザルハ憾トス、

● 剝脫性皮膚炎ノ二例

金城療病院皮梅毒 山田孝太郎

一 例 石川縣鹿島郡中野島村農 S、T、男、三十六年

父六十歳生存左肩關節慢性「ロイマチス」アリ母五十八歳生存スレトモ六七年前ヨリ下肢ニ鈍痛アリ勞働スルコトヲ得ズ兄弟妹各一人健在、五子アリシモ二名死亡

患者七八歳ノトキ重症ノ麻疹ヲ經過シ十五六歳「スカビース」ニ罹ル二十歳ニ至ル迄ハ時々胃瘰ヲ患ヒ二十歳後ハ腰痛ノ癢アリ兵役義務ヲ經過シタリ淋病蠱毒ニ感染シタルコトナシ

三四年前ヨリ毎年十一月大阪ニ行キテ勞働シ翌年三月歸國ス昨年九月背部ニ「フルンケル」ヲ生ジ治後該部赤色ヲ殘シ時々癢痒アリ落屑スト云フ其當時ヨリ肛門亦癢痒アリ十一月十七日大阪ニ行キ南京蟲ニ螫サレタリ十二月上旬右腓腸部ニ癢痒アリ其部五厘貨大ノ部繻批狀ニ落屑セシモ「ワシツエ」ノ螫セシモノト思考セシニ入浴ノ際前記ノ背部ノ他右肩部ニモ掌大ノ赤斑ヲ存スルコトヲ注意セラレタリ爾來不明ノ日子ノ間ニ漸次蔓延シ本年三月ニハ大腿内側兩胸側橫腹部顔面手掌足蹠ヲ除キ其他ハ悉ク侵襲セラル、ニ至レリ三月二十日歸國シテ其前後毎日甚シキ惡寒アリ同月二十七日八時突

然全身猩紅熱様ノ發疹アリ數日ヲ經テ葉狀ニ甚シク落屑スト云フ

五月二日診 体格佳良營養モ甚シク侵サレズ全身皮膚中頰鼻隆及手指ノ掌側ヲ殘シ其他ハ悉ク犯サレ全身皮膚暗赤色ヲ呈シ灰白色葉狀ノ落屑片ヲ以テ被ラレ頭毛ハ稀粗トナリ白色ノ落屑片ヲ固着シ耳翼ハ滲潤腫脹シ數ケノ龜裂ヲ現ハシ肘關節腕關節膝關節周圍ニ龜裂アリ腋毛ハ全ク脫離シ陰毛亦減ス趾爪ハ營養ヲ失ヒ肥厚粗糙トナル

皮膚ノ溫度ハ亢進ス指壓ニヨリ全ク褪色セズ

肘腺ハ左一ヶ豌豆大、左頭腺蠶豆大、左右脚腺鼠蹊腺數ヶ豌豆大ヨリ北海

道蠶豆大腫脹無痛
自覺症、中等度ノ癢痒、起坐時臀部ノ痛、屈伸時肘膝部ノ痛、一般乾燥緊張ノ感、眼及口ノ閉閉較困難此他全身倦怠時トシテ眩暈アリ、粘膜ニ變化